

# 循環社会の実現「目指して」

## 秀峰で講演 元東大総長・小宮山さん

東京大学の第28代総長を務めた小宮山宏さんが8日、松本秀峰中等教育学校（松本市埋蔵文化財センター）で講演した。人類の長寿化や知識量、活動量の爆発的な増加で地球が相対的に小さくなり、気象リスクなどが高まる現代を「人類史の転換期」と表現。既存の資源を再生エネルギーで回す循環社会を500人が聴講した。

小宮山さんは「日本の資源がないと言われるが、この考えは古い。社会で活躍する著名人の経験や考え、人生と語り、製鉄を例に、観に触れ、生徒の知見や可能性を広げる同校のキャリア教育特別講演会に位置づけ、15年生や保護者ら約500人が聴講した。



10代の若者たちを前に講演する小宮山さん

する「都市鉱山」の考え方を紹介した。鉄もプラスチックも「日本は飽和状態にある。都市鉱山を再生可能エネルギーで回す循環社会だ。希望はある」とも話した。

これらの「明確なビジョン」を達成するには「やるかやらないか」だ。希望はある」とも話した。

「物を求めて成長した時代から、これからは生きがいを求める時代に入る。自信と勇氣を持って、いい社会を自分たちの手でつくって」とエールを送った。

小宮山さんは地球が持続し、誰もが自己実現できる社会を「プラチナ社会」と名付け、「プラチナ構想ネットワーク」を設立。産業や人材育成で実現を目指す取り組みを進めている。

(有賀文香)